

Coleman



取扱説明書

SPORTSTER™ II

508A700J



The One Burner.

1 燃料を入れる

⚠️ 必ず、アウトドア（屋外）の火気のない所で行ってください。

- ①燃料レバーを右に止まるまでまわす。



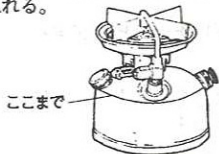
- ②ポンプノブを、右に止まるまでまわす。



- ③燃料キャップをはずす。



- ④ランタンを水平に置いて、注入口からあふれない位（8分目程度）に燃料を入れる。



- ⑤燃料キャップを、固めにしめる。

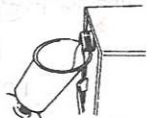
⚠️ 燃料の入れ過ぎに注意

燃料を入れ過ぎるとポンピングにより加圧するスペースがなくなり、液状のままのガソリンがバーナー部に放出され、不完全燃焼の原因になります。また、燃料が少な過ぎると炎が途切れたり、不安定な燃焼になります。

燃料満タンの目安

フューエルファネルを使った場合

- ①ランタンを水平に置いて燃料を入れる。



- ②フューエルファネルから、タンク内に入らなくなったなら、注入をストップ。



- ③ファネルを少し持ちあげると、ファネル内に残った燃料はタンク内に入り、ちょうど満タンの量になる。



ガソリンフィルターを使った場合

- ①ランタンを水平に置き、ガソリンフィルターは正確に押し込み燃料を入れる。



- ②缶から燃料が入らなくなったなら、注入をストップ。ちょうど満タンの量になる。

2 ポンピング

燃料タンク内に空気圧を加えます。

- ①燃料レバーを「OFF」にセットする。④手前に引いて、奥まで押しこむ正確なストロークを繰り返す。



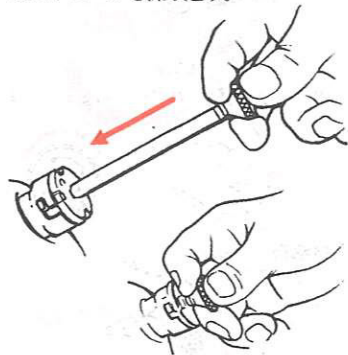
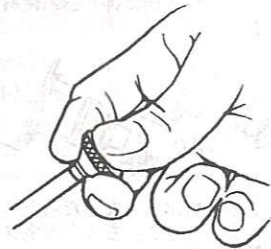
LOW

- ②ポンプノブを、左に2回転させる。



- △ 堅くて回らない時はプライヤー等で左に回してください。(特に新品購入時は堅い場合があります)

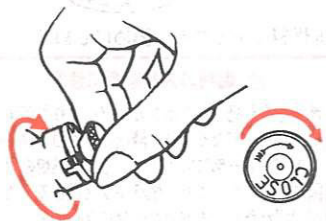
- ③親指でポンプノブの穴を押さえ、人差し指と中指を添える。



- △ ポンピング時に引っかかり等を感じる場合はリユベリカントを注入してください。

- ⑤25回以上ポンピングする。

- ⑥ノブを押し込んで、右に止まるまでまわす。



ポンピング操作上の注意

- △ ポンプカップの乾燥

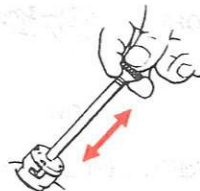
ポンプカップが乾燥していると、ポンピングしてもひっかかる感じや軽すぎる感じで、空気が入らない。ポンプキャップの「OIL」と表示のある穴から、リユベリカントを2~3滴注入する。



リユベリカント
ポンプカップ専用
特殊オイル

- △ ポンピングは正確に

燃料タンクに垂直になるように、正しくストロークする。力を入れ過ぎて、間違った方向に押しすと、エアーステムを曲げるなど、故障の原因となる。



- △ 乾燥した状態で、無理にポンピングすると、ポンプカップがめくれるなど、破損の原因となる。



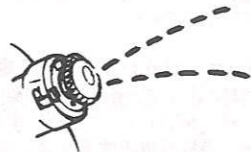
- △ ポンピング時は、引き過ぎに注意(特にイーザーポンピングご使用の際は注意してください。)

ポンピングをする際、手前に引く時は8分目位の所までとし、最後まで引っ張らないこと。引っ張り過ぎるとプッシュオンナットが外れ、ポンププランジャーが外れる場合がある。外れた場合はP.15の組み立て方を参照してください。

ワンポイントメンテナンス

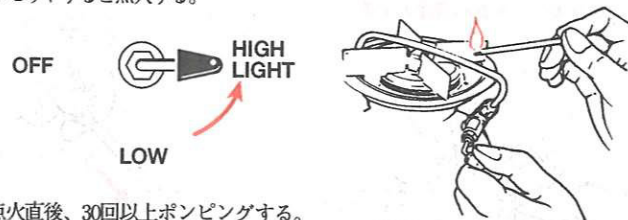
- チェックバルブ機能の点検

△ ポンピング操作直後に点検する
ポンプノブ先端の穴から燃料が吹きでる場合は、チェックバルブ機能不良。空気圧を抜いて修理に出す。



3 点火

①柄の長いライターなどの火をバーナーに近づけ、燃料レバーを「HIGH/LIGHT」にセットすると点火する。



②点火直後、30回以上ポンピングする。

点火時の注意

△ 炎は上にあがるので、点火するときは、ストーブの上にかがみこまない。

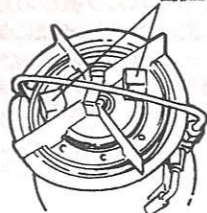
△ 必ず火を先に入れてから、燃料つまみを開いてください。先に燃料つまみを開くと不完全燃焼の原因になります。

△ 点火時に多量の空気を使うので点火直後ポンプノブが固くなるまで、充分ポンピングする。

△ バーナー以外から炎が出る場合は、燃料の出すぎか燃料漏れが原因。燃料レバーを「OFF」にセットする。消火後、再度取扱説明書をよく読んで、正しい手順で点火操作を行う。

△ 炎が安定しない場合は燃料バルブを「OFF」と「HIGH」の間で素早く2~3回往復させ、ジェネレーター内部の穴を掃除して燃料の通りをよくすると、すぐに安定した炎に変わります。

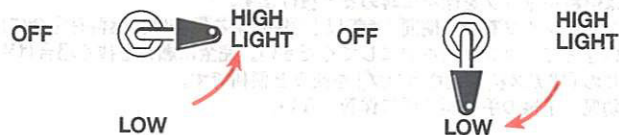
△ 外気温0度以下の時は、ジェネレーターの下、バーナーキャップの上に、少量の固形燃料などを置き、プレヒート後点火する。プレヒート用固形燃料



4 火力調節

①火力調節は燃料レバーで行う。

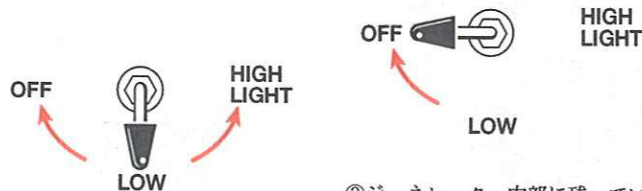
②「HIGH」が強、「LOW」が弱。



5 消火

①燃料レバーを「OFF」と「HIGH」の間で、数回往復させる。

②燃料レバーを「OFF」にセットする。



③ジェネレーター内部に残っているガスがなくなるまで2~3分位燃えるが、しばらくすると消える。

6 収納・保管

△ストーブ本体が完全に冷えてから行う。

- ①車のトランクなどで運ぶ時や、使用後に保管する場合、短期間であれば燃料を抜き取る必要はありませんが、空気圧は抜いてください。空気圧は燃料キャップを徐々に緩めると抜けます。
- ②シーズンオフ等で長期間(半年以上)保管する場合は、燃料を完全に使いきって、タンク内を空にしてください。完全に燃料を抜く場合は別売りの「残ガス抜き取りポンプ」を使うと便利です。
- ③幼児、子供の手の届く所に保管しない。

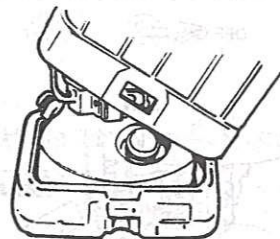
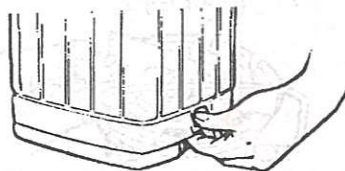
△器具を収納・保管・運搬する場合は、火気の近く、湿度が高い、高温な車内等温度が40度以上になる場所には収納・保管しないでください。

プラスチックケースの取扱方法

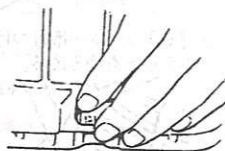
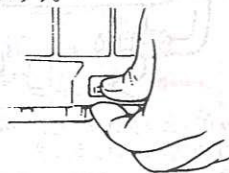
取り出し収納とも、両手で左右同時に行う。

取り出し方

- ①両手の親指を底部のロック用の爪に当て、内側に押しこみ、ロックする。
- ②ふたにある「PULL」部分を、底部の爪に合わせ、パチンと音がするまで、人差し指と中指をふたの縁に添える。



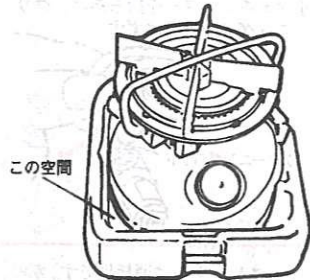
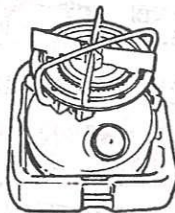
- ②ふたを外側に広げるようにしてロックをはずす。



ケースの底の空間は、ジェネレーターなど予備のパーツを収納できる。

収納方法

- ①ストーブを底部に入れる。



7メンテナンス

ジェネレーター交換の手順

△ 点火しにくい。完全燃焼しない。いつもより火力が弱い。
このような場合は、ジェネレーターを交換してください。

①燃料レバーを「OFF」にセットする。



②ジェネレーター固定金具をはずす。



③ジェネレーター取り付け部の、ジャムナットをゆるめる。



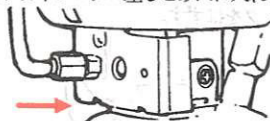
④ジェネレーターを持ち上げ、クリーニングロッドをはずす。



⑤ジェネレーター先端を、本体から抜き取り、ジェネレーターを横にスライドさせながらはずす。



⑥新しいジェネレーターを、グレート(ごとか)のくぼみに合わせ、先端を本体のジェネレーター差しこみ口に入れる。



⑦クリーニングロッドを、バルブ先端の穴に引っかけ、ジェネレーターのラッパ状の部分にバルブ先端にかぶせ、ジャムナットで固定する。



⑧ジェネレーター固定金具を取りつけて完了。

△ 交換後点火操作を行い、燃料漏れがないか確認する。

ジェネレーターは消耗品です。常時、予備のジェネレーターをご用意ください。

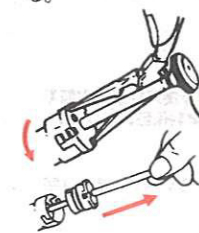
ポンプカップ交換の手順

△ ポンプカップが破損、損傷または外れたときは、ポンピングしても空気が入りません。ポンプカップを交換するか再度組立て直してください。

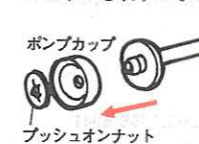
①ポンプノブを左に10回転以上回し、チェックバルブからエアーステムをはずす。



②ラジオペンチなどで、ポンプキャップを左にまわし、ポンプノブを抜きとる。



③ポンプカップを固定している、プッシュオンナットをはずし、損傷したポンプカップを取りのぞく。



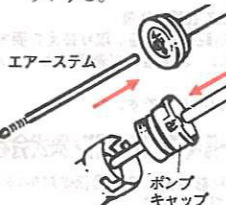
ポンプブランジャーの組立て方法

△ ポンプカップが外れてしまった場合は、ポンプキャップを外すと中にエアーステム、白いプラスチック板、ポンプカップ、プッシュオンナットがシリンダー内に残っているはずですので、それを取り出します。エアーステムは左に10回転以上回すと取れます。

ポンプキャップ、白いプラスチック板(向きに注意)、ポンプカップ、プッシュオンナットの順で組み立て、固定する。



④ポンプカップにリユブリカント(専用特殊オイル)をつけ、エアーステムをポンプブランジャーの中に入れ、ポンプノブをセットする。



⑤ポンプキャップを固定する。



⑥ポンプノブを右に止まるまでまわして、交換完了。



△ ②の段階で、エアーステムに曲がりがないか確認し、変形していたら交換する。

△ エアーステムが曲がっていると、ポンピング操作が固くなり、チェックバルブ破損の原因になる。

常時、ポンプリペアキットの携行をお勧めします。